

# 「名刺説法」とその実際

有本智心

◎清澄で東條景信に話され景信が激怒したと思われる日蓮大聖人の「念佛批判」（説教原稿の一例）

判 念仏無間地獄抄 建長七年

經 譬喩品 若し人この經を信毀せずして誹謗せば、即ち一切世間の佛種を断ぜん

その人命終して阿鼻獄に入らん。一劫を具足して劫尽きなば更生まれん。  
是の如く転々して無数劫に至らん。

經 譬喩品 今此三界皆是我有 と説きたまうは主君の義なり

其中衆生悉是吾子 と説きたまうは父の義なり

而今此處多諸患難 唯我一人能為救護 と説きたまうは師匠の義なり

判 弥陀、薬師、大日等をたのみ奉る人は、二十逆罪の咎によつて悪道に墮すべきなり

判 浄土の三部經とは釈尊一代五時の説教の内、第三方等部の内よりいでたり、この

四卷三部の經は全く釈尊の本意に非ず、三世諸仏出世の本懐にも非ず、唯暫く衆生誘引の方便也。● 例えば塔をくむに足代を結うが如し。念仏は足代なり。

法華は寶塔なり。● 法華の塔を説き給いて後は念仏の足代をば切り捨つべきなり。

判 阿弥陀經の長老舍利弗尊者は千二百の羅漢の中に●閻浮提第一の大智者なり●

阿難尊者多聞第一の極聖、釈尊一代の説法を空に誦せし広学の智人なり。

かかる極意の大阿羅漢すら尚往生成仏の望みを遂げず。

經 舍利弗||華光如來(譬喩品)で成仏

阿難 ||山海慧自在通王佛(授學無學人記品)で成仏

判 善導和尚のこと 自死

經 阿弥陀經 十八願 除五逆謗法(五逆) 罪は不成仏

三十五願 女人往生不可の願(女人は不成仏)

判 念仏無間地獄抄 人王八十代後堀河院御宇、嘉祿三年(一二二七) 選択集並びに印版を焼失せしめ、法然が墓所

をば掘り出して鴨河に流され畢んぬ 専修念仏停止 右大将頼隆奉はる、進上天台座主大僧正御房政所

同七月十三日 念仏停止

嘉祿三年 參議範輔、武藏守殿 専修念仏亡国の事

◎法華經は絶対の法門(説教原稿一例)

例証 相對と絶対 法華經は絶対の法門

觀心本尊抄 今本時の娑婆世界は三災を離れ四劫を出でたる常住の浄土なり、三種の世間なり

重須殿女房ご返事 地獄と仏界

△善悪不二 煩惱即菩提 娑婆即寂光土 反対⇨欣求浄土 厭離穢土

△蓮華 / 久米の仙人 / アンパンマンとバイキンマン (善悪不二)

◎参考 カード⇨ 佛教とは / 十界 / ご本尊を使って法話 (原稿一例)

「名刺説法」とその実際 (絶えず携帯していること)

(説法にさらに迫力をつけるために) (話方に悩む布教師達のために)

一、布教師の説法に「日蓮聖人の教え」が説かれぬ又は説けない

私達布教師が、お話をする原則に、挨拶、端緒、綱領、因縁、結勸と大体このルールに従って進めて行くがこの配分に苦勞する。

二、綱領とは「日蓮聖人が体得された法華經の教え」である

この中で一番苦勞するのが「綱領」である。この綱領は「お話」の中で一番大事な骨格である。この骨格とは建物で例えると骨組みである。これがしっかりしないと、話の要点が定まらないから、何の話をしたのか、何が目的なのか、極めて印象が薄いので、聴衆の記憶に残らない。通俗の佛教法話は他宗の教師が常にしている。

三、骨組みのない法話には聴聞衆の感動、感激がないから喜びがない。

話に迫力を付けたい。時間が余るほど中味が少ない。だからだと話がまとまらない。講題に結論が繋がらない等こんな悩みを持つ布教師の皆さんの助けになれば幸いである。短くとも良い。法華經を信仰して良かった。よくわかった。そんな意味だったのかもっと聞きたいという感動を与えたい。

以上、私の布教失敗の経験から得た教訓です。ご参考にして下さい。

#### 四、布教の骨格とは即ち綱領である

綱領の中に譬喩談、因縁談を取り入れて出来うる限り教師や聴聞衆に納得させ、感動させねばならない。日蓮聖人のご布教も又かくのごとくあったに違いない。日昭上人、土木常忍や四条金吾、池上宗仲等十分に納得され、また感動に包まれた日々であった筈である。近年、田中智学、山川智応等の布教もまたかくの如くあったと確信する。

五、何とぞ各師もそれぞれ研究され、このような軽便で、重要な法門の布教にご利用下されば幸いである。コピーして聴聞衆に渡して説明されても結構です。

◎名刺説法（自分が携帯して持っていていてもよし、檀信徒にコピーして予め渡すのもよし）の一例

(表)

(裏)

## 日蓮大聖人の教え 1

### 人生とは

1. 人に生まれる\*赤ちゃん
2. 人に生かされる\*青年、尻が青い、青春
3. 人として生きる\*黄金時代
4. 人を生かす\*白髪
5. 人に生かされる\*(黒)冥途の旅(戻る)

上総五十座説法之砌 H22.4.7～11  
後座 大阪・宗林寺 有本日志

## 日蓮大聖人の教え 2

### 佛教とは

1. 佛の教え=佛とはインドにお生まれになった釈迦が悟った教え
2. 佛を教える=釈迦は佛は私一人ではない。東西南北等四方八方の佛国土に、夫々佛がおられる。但しこの娑婆世界に人間として、生まれた仏が私(釈迦)である。
3. 佛になる教え  
一切衆生が佛にならなければ、私の教えは意味がない。

上総五十座説法之砌 H22.4.7～11  
後座 大阪・宗林寺 有本日志

### 判 経

妙法蓮華經 法師品 第十  
諸佛の所に於て大願を成就して衆生を感むが故に此の人間(娑婆世界の)に生ずるなり

身延山御書  
大地の上に針を立てて大梵天宮より糸を下して、あやまたず糸の針の穴へ入ること有りとも我等が人間に生るる事は難く、又億々万劫不可思議劫をば過ぐるとも、如来の聖教に値い奉る事難し。而るに受け難き人間に生を受け値い難き聖教に値い奉る。

### 判 経

妙法蓮華經 如来壽量品 第十六  
毎に自らはの念を作す 何を以てか衆生をして無上道に入り 速やかに佛身を成就することを得せしめんと

報恩抄  
佛教を習わん者 ○父母師匠、国恩をわするべしや  
佐渡御勤気抄  
元より佛法をきわめて佛になり恩ある人も助けんと思ふ  
聖愚問答抄  
いまだ佛教という事を知らず

日蓮大聖人の教え 4

「十界の代表」

1. 佛（釈迦牟尼佛）
2. 菩薩（上行、無辺行、淨行、  
安立＝本佛教化の菩薩）  
（文殊・普賢等＝迹佛教化の菩薩）
3. 縁覚（舍利佛、目連等）
4. 声聞（その他五百弟子等）
5. 天上（帝釈天、日天、月天等）
6. 人間（阿闍世王）
7. 修羅（阿修羅王）
8. 畜生（大龍王）
9. 餓鬼（鬼子母神、十羅刹女）
10. 地獄（提婆達多）

上総五十座説法之砌 H22.4.7～11  
後座 大阪・宗林寺 有本日志

日蓮大聖人の教え 3

「十界」とは？

～人の心の動きを表わす～

1. 佛（大いなる慈悲 完全）
2. 菩薩（自分より他人を教化）
3. 縁覚（縁によって知る自行）
4. 声聞（法を聞いて知る自行）
5. 天上（喜＝よろこぶ）
6. 人間（平＝たいらか）
7. 修羅（詔曲＝へつらい）
8. 畜生（痴＝おろか）
9. 餓鬼（食＝むさぼり）
10. 地獄（順＝いかり）

上総五十座説法之砌 H22.4.7～11  
後座 大阪・宗林寺 有本日志

太田左衛門尉御返事  
此の方便品と申は迹門の肝心也。此品には佛、十如実相の法門を説て十界の衆生の成仏を明し給え。○ 十界の衆生の成仏の始は是也  
一念三千法門  
十界の衆生、各互に十界を具足す  
一代聖教大意  
総じて十界の衆生の為なり

判 經

妙法蓮華經 方便品 第二  
世尊は法久しうして後要らず当に真実を説きたもうべし諸の声聞衆、縁覚衆を求むるものに告ぐ  
我れ苦縛を脱し涅槃を速得せしめたることは佛方便力を以て示すに三乘（菩薩・縁覚・声聞）の教えを以つてす  
観心本尊抄  
順（いかる）は地獄、食（むさぼる）は餓鬼、痴（おろか）は畜生、詔曲（てんご）なるは修羅（しゅら）喜ぶは天、平らかなるは人なり。  
○ 羌瞬（中国伝説の名君）等の聖人の如きは萬民に於て偏頗（へんぱ）不公正なし。人間の佛界の一分なり。  
○ 悉多（釈迦）太子は人界より佛身を成す。此れ等の現證を以つて之を信すべきなり。

日蓮大聖人の教え

5

ご本尊とは

持国天王  
無辺行菩薩  
上行菩薩  
多宝如来  
釈迦牟尼佛  
淨行菩薩  
安立行菩薩  
毘沙門天王

不動明王（梵字）  
提婆達多  
鬼子母神  
大竜王  
第六天魔王  
彌勒菩薩  
富樓那  
大月天王  
文殊菩薩  
舍利弗  
天照大神  
八幡大菩薩  
日蓮在御判

普賢菩薩  
日蓮  
明星天子  
大迦葉  
阿闍世王  
阿修羅王  
十羅刹女  
增長天王

上総五十座説法之砌 H22.4.7~11  
後座 大阪・宗林寺 有本 日誌

日蓮大聖人の教え

6

妙法蓮華經

一 華嚴時 けこんじ	二 阿含時 あこんじ	三 方等時 ほうじょうじ	四 般若時 はんげんじ	五 法華時 ほっけじ
30歳 12月8日 35日間	31歳 42歳 十二年間	42歳 50歳 八年間	50歳 72歳 二十二年間	72歳 80歳 八年間
無問自説	有問他説	有問他説	有問他説	無問自説

(涅槃時)……………一日

釈尊聖教一代五時(十九歳出家―三十歳成道―八十歳(入滅)

上総五十座説法之砌 H22.4.7~11  
後座 大阪・宗林寺 有本 日誌

判 日女御前御返事 仰、此本尊は在世五十年の中には八年、八年の間にも涌出品より囑累品まで八品に顕れ給うなり。さて滅後には正法、像法、末法の中には、正像二千年には、いまだ本門の本尊と申す名だにもなし○ここに日蓮いかなる不思議にてや候らん○されば首題(南無妙法蓮華經)の五字は中央にかり四大天王は寶塔の四方に座し、釈迦多寶、本化の四菩薩肩を並べ、普賢、文殊等、舍利、目連等座を屈し、日天、月天、第六天魔王、龍王、阿修羅、其の外、不動、愛染は南北の二方に陣を取り、惡逆の達多、愚痴の龍女一座をはり、三千世界の人の寿命を奪う惡鬼たる鬼子母神、十羅刹女等しかのみならず、日本国の守護神たる天照大神、八幡大菩薩、天神七代、地神五代の神々総じて大小の神祇等體の神つらなる。其餘の用の神もるべきや○一人もれず此○本尊の中に住し給い、妙法五字の光明に照らされて本有の尊形となる。是れを本尊とは申すなり○

經 無量經 説法品 第二  
四十余年未だ真実を顕わさず  
妙法蓮華經 從地涌土品 第十五(彌勒の質問)  
世尊如来太子たりし時、釈の宮を出でて  
伽耶城を去ること遠からず道場に坐して  
阿闍多羅三藐三菩提を成ずることを  
得たまえり、是れより己来始めて四十餘年を過ぎたり  
開目抄 教主釈尊は○御歳十九の(出家三十成道の菩薩○  
観心本尊抄 釈尊の因行果徳の二法は妙法蓮華經に具足す  
撰時抄 衆流(色々な教え)集まりて大海(妙法蓮華經)  
となる 微塵(色々な功德)集まりて須弥山と(妙法蓮華  
經)となれり○佛になる教え道はこれよりほかに又むも  
とむることなかれ

日蓮大聖人の教え 7



(代五時) 大體は凡そ八十餘家、三十三部、三十三部

上野五十座説法之間 H22.4.7~11  
後座 大阪・宗林寺 有本日誌

日蓮大聖人の教え 8



上野五十座説法之間 H22.4.7~11  
後座 大阪・宗林寺 有本日誌

判

妙法蓮華經 法師品 第十  
我が所説の諸經、而も此の經の中に於て法華最も第一なり、  
已に説き今説き、當に説かん(已に過去/今に現在/當は  
未來)  
而もその中に於て此の法華經最も難信難解なり  
唱法華題目抄、故に四十餘年の諸經並に涅槃經を打捨て  
給いて、法華經を師匠と御たのみ候へ法華經をば國王  
父母、日月、大海、須弥山、天地のごとくおほしめすべ  
し○諸經は悪人、愚者、鈍者、女人根缺等の者を救う秘  
術をば末だ説き願はずとおぼしめせ  
報恩抄 法華經の文には已説、今説、當説と申して此の  
法華經は前(法華より)已前四十餘年の諸經を云うと此(無  
量義經)との經々に勝れたるのみならず後(涅槃經)に説か  
ん經々にも勝るべしと佛定め給う

判 經

妙法蓮華經  
1 性 隨衆生性(方便品)衆生の性に随つて  
2 情 情存妙法故(提婆品)情に妙法を存せるが故に  
3 意 於意如何(壽量品)意に於て如何  
松野殿に返事・三世諸佛總勸文抄  
言葉というは心の思いを響かせて声を願すを云うなり  
一生成佛抄  
浄土といい、穢土というも土に二つの隔てなし、唯我  
等が心の善惡を言うなり。

